創作狂言

「里見八犬伝 其ノ参（エピソード スリー）」ガイド

これまでのあらすじ

零　結城合戦を落ち延びた**里見義実**は、逃走した先の安房の国で悪事を働いていた**山下定包**とその妻**玉梓**を倒します。しかし十数年後、玉梓の怨念によって、娘の**伏姫**を失ってしまいました。その死に際、伏姫が身につけていた数珠から、仁義八行の文字が記された八つの玉が四方に飛散していきました。

壱　それから30年以上の時が流れました。大塚に住んでいた**犬塚信乃**は、父から託された公方家の宝刀を**諸我公方（足利成氏）**に献上するため、義兄弟の**額蔵（犬川荘助）**に見送られ出立します。しかし、宝刀が偽物とすりかえられていたことから、追われる身となってしまいます。そして追ってきた**犬飼現八**と芳流閣の屋根の上で組み合ううちに、ともに川に転落してしまいました。

弐　流れついた2人を助けたのは、宿屋の主・**古那屋文五兵衛**とその子の**大田小文吾**でした。話すうちに3人は玉と牡丹のアザを持つ同志だとわかりますが、信乃が破傷風を患ってしまいます。そこへ小文吾の妹である**沼蘭**と夫の**房八**、2人の子**大八**がやって来ました。房八は信乃を捕えようとしますが小文吾に断られ、沼蘭と大八もまた殺されてしまいます。その後大八は息を吹き返し、大八も玉と牡丹のアザを持っていることがわかりました。ところが、その後大八は神隠しに遭ってしまいます。

一方、信乃・小文吾・現八は、主人殺しの罪により捕まっていた荘助を助けるため、大塚へ向かい……。

八犬士

義兄弟　伯父/甥

- 孝　犬塚信乃戌孝（いぬづかしのもりたか）
- 義　犬川荘助義任（いぬかわそうすけよしとう）
- 忠　犬山道節忠与（いぬやまどうせつただとも）
- 信　犬飼現八信道（いぬかいげんぱちのぶみち）
- 悌　犬田小文吾悌順（いぬたこぶんごやすより）
- 智　犬坂毛野胤智（いぬさかけのたねとも）
- 仁　大八（だいはち）（犬江親兵衛仁（いぬえしんべえまさし））

犬田小文吾悌順 → 犬坂毛野胤智：一目惚れ

犬飼現八信道 → 犬田小文吾悌順：腕を見込んで接待

犬飼現八信道 → 音音：主従関係

音音（おとね）＝ 姥雪世四郎（おばゆきよしろう）（稽平（けいへい））

双子

- 曳手（ひくて）＝ 力次郎（りきじろう）
- 尺八（しゃくはち）＝ 單節（ひとよ）

馬加大記常武（まくわりだいきつねたけ）

【公演で登場する狂言の謡「小鼓」】

いとし若衆との　小鼓は
しめつゆるめつの
調べつつ　音入らぬ先に
鳴るか　鳴らぬか
チィ　チィ　タッポポッ
ポポ　イヤー
鳴るか　鳴らぬか

狂言について

狂言とは、「能」とひとくくりにして「能楽」と呼ばれて長い歴史を持つ舞台芸能です。室町時代から現代に至るまで、約600年間演じられてきました。長く伝統が受け継がれた魅力を探るためには、狂言を語る上で欠かせない「笑い」がキーワードとなります。

狂言には“商家の主人と奉公人”“都会に出没する詐欺師と田舎者”“親と子”など様々な人物が登場し、そこでは現代とも通じる普遍的な人間関係が織りなす「笑い」が表現されています。等身大かつ現実的な目線で演じられる狂言の世界は、不安定な世を生き抜く人々の心と深くつながっているのです。さらには、登場人物の少なさや、主として会話によって話が展開することから、より庶民に親しまれやすい芸能であったことがうかがえます。

そして、狂言のもう一つ大事な要素が「謡と舞」です。この「舞」の源流は、狂言が誕生する以前に隆盛し、衰退してしまった芸能“田楽舞”や“白拍子舞”にありました。田楽舞は、平安時代から行われた民俗芸能の一つで、農耕儀礼に起源すると考えられています。田楽舞に対して白拍子舞は、平安時代末期ごろ女性芸能者が中心に担っていたもので、特に貴族たちに愛されていました。受容者である貴族自身もまた、白拍子を謡い、舞っていたという記録も残っています。

この白拍子舞の担い手として有名なのが、源義経の愛妾・静御前です。その静御前が鶴岡八幡宮で舞ったと伝わる「しずやしず」「吉野山」ですが、現代には詞章しか残っておらず、当時の舞や謡は分かりません。

そこで、2005年の大河ドラマ『義経』では、本公演の作・演出を務める小笠原匡によって舞の動きや謡が復元されたのです。

本公演では、原作にて女田楽師に扮する美男子として登場する犬坂毛野が、現代に復元された静御前の白拍子舞を披露いたします。長い伝統のある「笑い」や「舞」と現代の風刺が融合した創作狂言の世界を、とうぞお楽しみください。

■参考文献
・小林責(監)油谷光雄(編)『狂言ハンドブック』三省堂(2008)
・沖本幸子『乱舞の中世　白拍子・乱拍子・猿楽』吉川弘文館(2016)
・曲亭馬琴(著)石川博(編)『南総里見八犬伝』角川学芸出版(2007)
・藤伐佳子(編)『南総里見八犬伝　名場面集』三弥井書店(2007)

記念スタンプ

★展示ブースでのお楽しみ★